

## 「子どもを褒めること」

平成26年12月2日

私は、児童700人の小学校でPTA会長を4年間しています。先日、研修会に参加して、とても印象に残った事を掲載します。

- ◎子どもを叱る言葉をいくつか言えますか？
- ◎子どもを褒める言葉をいくつか言えますか？

叱る言葉は「早くしなさい」、「勉強しなさい」、など、たくさん出てくると思います。でも、褒める言葉は中々出て来ないものです。

ということは、私たち親は子どもを褒めることが叱る事よりも圧倒的に少ないのだと思います。もちろん、褒め過ぎることは良くないと思います。

- ◎それでは、どんな時に褒めていますか？

大半は、「テストで良い点を取った」、「何かを達成出来た」、「試合に勝った」など、良く出来た時に褒めていると答えると思います。もちろん、出来た時に褒めるのはとても大事な事だと思います。

でも、「出来なかった時」、「失敗したとき」、「負けたとき」にこそ褒めてあげるのが親の役目だということでした。

出来た時に褒めるのは、他の親や周りの方でも出来ます。でも、出来なかったときなどに、「出来なかったけどあそこは良かったね」、「失敗したけどあそこまでは良かったよ」、「負けたけど一生懸命頑張ったお前が一番好き」など、子どもが「次には頑張る!」と思うように、褒めてあげる事がとても大切だということでした。

これを聞いたとき、とても共感し、私自身、子どもが出来なかった時に褒めてあげていないような気がして、とても反省しました。

人間は、失敗したり負けたりする事で、もっともっと強くなる。だからこそ、失敗した時、次に繋げるために、褒めることがとても大切だと思います。

これは、私たち大人の仕事でも同じ事が言えると思います。部下や後輩が、良く出来た時は、当然のことながら褒めてあげる。でも、失敗した時には、もちろん、指導することも必要ですが、その一方で、良かった部分を見つけ、「あそこは良かったけどね」など、フォローしてあげることも、次に繋げ、やる気を保たせるために、上司や先輩としてとても重要な事だと思います。

お互いを思いやり、信頼関係を築き、共に頑張りましょう！